

笹川保健財団 地域啓発活動助成

(西暦) 2020年 2月 10日

公益財団法人 笹川保健財団  
会長 喜多悦子 殿

## 2019年度地域啓発活動助成

### 活動報告書

標記について、下記の通り活動報告書を添付し提出いたします。

#### 記

活動課題

がんになっても自分らしく誇りを持って生きる地域づくり

---

活動団体名： 非営利活動法人がん患者サポート研究所きぼうの虹

活動者（助成申請者）名： 高橋操

## 活動報告書

がんになっても自分らしく誇りを持って生きる地域づくり

非営利活動法人がん患者サポート研究所きぼうの虹 高橋操

## 1、活動内容・実施経過

がんと診断されたときから患者や家族らが、自分らしく誇りを持って地域で生きる上での問題点と、その問題点を総合的に解決していく方法を検討し、行政と民間が果たす役割、医療・福祉の専門職や民間ボランティアの連携、協働の取組みについて研究・実践する。

## (1) がん患者サポート事業

がん患者・家族、地域住民、医療・福祉関係者らが互いの立場を超えて、がんについて対話する場「きぼうの虹カフェ」を2か月に1回開催している。また、テーマを設け、様々な専門職によるミニ講座を実施している。

## (2) がん患者サポートを担う人材の育成

がん患者サポートグループのファシリテーターやピアサポーター等、地域でがん患者に寄り添うことができる人材を育成している。

## (3) 患者・家族及び住民・支援者向け講演会・研修会の開催

専門家等から、がんを抱えながら社会生活や療養生活を送る上でのポイントや支援の方法などを学ぶための講演会や研修会を開催している。また、がん患者だけではなく、地域で暮らす方が、がんになったとしても自分らしく誇りを持って地域で生きることに向き合えるよう支援している。

## (4) がん患者サポートの普及啓発

地域のイベントや区が主催するがん対策普及啓発イベントなどに参加し、サポート活動の紹介や「訪問看護なんでも相談」を実施している。また、ニュースレターを定期的に発行し、「がんという病気が誰でもなりうる自分自身の問題である」こと、「一見元気そうに見える患者でも心身の様々な問題を抱えて生活している」こと、「がんになっても住み慣れた地域で自分らしく生きることの大切さ」など、がん患者サポートの必要性等をPRすることで、がん患者以外の人も理解できるよう地域住民に働きかけている。

実施日	実施内容	
2019. 4. 1	ニュースレター発行	隔月 500部発行(カフェ利用者や支援者団体、病院に配布)
2019. 4. 17	きぼうの虹カフェ	隔月でカフェを開催 <対象者>がん患者・家族・住民等 <場所>すみだ区役所
2019. 5. 23	スタッフ運営会議	▼運営会議 ※各月(偶数月)に実施 <対象者>本会理事及びスタッフ <場所>訪問看護ステーションみけ

2019.06.15	きぼうの虹カフェ	カフェ:上記内容にて開催
2019.07.1	ニュースレター発行	ニュースレター:上記内容にて発行
2019.07.18	スタッフ運営会議	運営会議:上記同様にて開催
2019.08.21	きぼうの虹カフェ	カフェ:上記内容にて開催
2019.09.01	ニュースレター発行	ニュースレター:上記内容にて発行
2019.09.19	スタッフ運営会議	運営会議:上記同様にて開催
2019.10.03	墨田区がん対策イベント 「きぼうの虹講演会」	専門家(廣瀬氏)による「がんの専門家と気軽に話そう! 病気・生活のことあれこれ」ワークショップをがん患者・家族、住民らに対し実施。墨田区役所)
2019.10.19	きぼうの虹カフェ	カフェ:上記内容にて開催
2019.11.21	スタッフ運営会議	運営会議:上記同様にて開催
2019.12.18	きぼうの虹の音楽カフェ	音楽療法士(平田氏)による音楽カフェ
2020.01.16	スタッフ運営会議	運営会議:上記同様にて開催
2020.01.25	きぼうの虹カフェ	カフェ:上記内容にて開催
2020.02.01	ニュースレター発行	ニュースレター:上記内容にて発行

## 2、活動の成果

活動に参加しているがん患者からは、「不安はあるが、がんに負けないように生活していくきっかけになった。」「一人ひとり、生き方が異なるように、がんへの向き合い方もそれぞれ。自分らしく前向きに生活していきたい。」などのコメントが聞かれ、前向きな変化が伺える。また、講演会等に参加した地域の方からは、「健康や生き方について考えるようになった。」「がん患者が多く身近にいることを知り、自分事として考えるようになった。」等、がんは他人ごとではなく、もし自分や身近な人ががんになっても、自分自身が納得できる生き方を考えられるなど変化がみられた。さらに、行政や地域の方々に当法人の活動「がんになっても自分らしく誇りを持って生きる地域づくり」が評価され、「墨田区がん対策推進会議」の委員に招聘されており、地域の総合的ながん対策推進に向けて働きかけている。

## 3、今後の課題

総合的ながん患者支援を行うには事業規模も大きく、行政の力が必要だが、患者や家族に寄り添う取組みは行政のみでは限界があり、柔軟性と汎用性を考慮すると「民」の果たす役割が大きい。今後も継続的実践活動を通し、がん患者の問題を総合的に解決していく課題を抽出し、地域包括的ながん患者支援の推進に貢献し再現性のある社会モデルとして構築していく必要がある。

## 4、活動の成果等の公表予定(学会・雑誌)

現在のところ公表予定はなし。